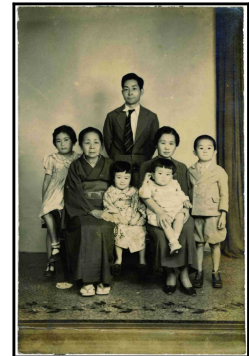


「伝えてきた私の長崎被爆体験」

浦田 藤枝

10/5版
玉名市岱明町・97歳

- 1 自分のこと ～生まれ、自宅、家族、当時の生活は～
- 2 当時の「城山国民学校」「純心高等女学校」のこと
- 3 純心高女学徒隊での「三菱長崎造船所第三機械工場（大橋工場）での学徒勤労働員の日々」
学徒隊制服、学徒隊「神潮」鉢巻き

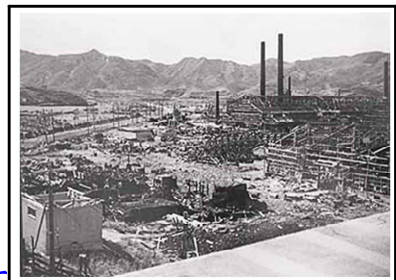


- 4 昭和20年8月9日「あの日」被爆の実相
母親との食料の買い出しへ 周りや自宅の様子
見上げた、原爆宇投下機「B29 ボックススクー」
骨のかげらになった家族 家族を探して
血まみれのおにぎり
当日夕方の米軍機による「機銃掃射」は..
家族の「検視調書」

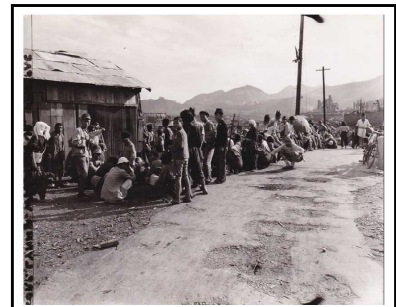
この世ではない「地獄」が
「人間であれば、
人間らしい死に方をさせてあげたかった!!」



- 5 終戦「8月15日」への思い
戦争終結の「みことば」と「平和」
親友の親に「ぶつけられた怒り」
流言「原爆ぶらぶら病」のこと
- 6 戦後は玉名へ、その様子と生活、今の日常は..
生まれた子の手と足を見ろ!
憎悪や命の不安を乗り越えて、
生き抜いた戦後81年



- 7 高校生平和大使等による紙芝居の作成、
たまな地域高校生ピースボランティアによる上演について
あまりにも被爆体験は、
すさまじく現実離れたから……



- 8 太平洋戦争が終わり「被爆・81年」となります。
いまでも、ウクライナ戦争・ガザ紛争・イラン戦争が
当時の事と重ね、その思いは..

- 9 日本被団協「2024年ノーベル平和賞」受賞、
生徒の皆さん方に伝たいことは !!
10月3日の「被爆81年熊本県原爆死没者慰霊式典」
「まずは生きる」
「ふたたび“ヒバクシャ”をつくらない」



□被爆体験者 浦田藤枝 様
令和7年8月23日 証言会にて

